

「市場と企業組織」ノート

O.E.ウィリアムソン（浅沼萬里・岩崎晃訳）『市場と企業組織』日本評論者、1980年
Oliver E. Williamson, *Markets and Hierarchies: Analysis and Antitrust Implication*,
The Free Press, New York, 1975

文責：秋野

i

序文

本書は、市場と階層組織それぞれの内部で、また両者の間で、経済活動がどのように組織されるかを考察の主題とする。

* 市場での取引：自立的経済単位の間での交換を伴う。ミクロ経済分析の研究対象

* 階層組織の中での取引：単一の管理単位の内部に取引の両側がある。支配と服従の関係が優勢を占めている。統合された所有が成立している状況下での取引

市場と階層組織の研究: 種々の代替的な契約様式の効率上の諸特性を評価することを企図するものである。最終生産物市場に加えて、労働市場、中間生産物市場、資本市場に関連する諸取引を集中的に研究。

「組織の失敗の枠組」(organizational failures framework): 取引を市場あるいは企業内で遂行することの効率性の評価の枠組み

vi

日本語版への序文

+ 取引は、財またはサービスが、経済活動の技術的に分離可能な諸段階の間で交換されるとき、必ず生じる。取引費用分析は、この段階と段階との間の境界面に焦点を置く。技術と定常状態における生産(ないし流通)の費用とに心を奪われている通常の研究のあり方は、種々の代替的な管理構造 (governance structure) のもとで課業を遂行することに伴う計画と適応と監視の費用の比較研究に道を譲る。

1

はじめに

5

第1章 新しい制度の経済学をめざして

* 市場と階層組織のミクロ経済的諸問題を探求することにより、単純な作業集団から複雑な現代法人企業にいたるさまざまな企業と市場の形態の発生と機能とをよりよく理解できるようにする。

6

+ 取引に焦点をおき、ひとつの制度形態によって取引を完遂することに伴う費用が、他の制度形態による場合のそれとどのように異なるかを比較することに焦点をおく。

「組織の失敗の枠組」: 経済組織の諸問題と取り組もうとするに当たって、人間の諸要因の演じる重要性を明示的に認めている。市場と階層組織の諸問題の多くを正確に特徴づけ、より十分に理解しようとするならば、基本的な人間の諸属性に、より自覚的な関心を払うことが不可欠である。

7

1 いくつかの先行文献

1 - 1 コモンズと制度の経済学

取引が経済学的研究の根源的な単位であると考え、法的統制権の移転と契約の有効性の研究に焦点をおいた。

+ 希少性がいたるところに存在し、利害対立が自然である。効率性が実現される協同は、利害の予定調和から生じるのではなく、対立の中から秩序を生み出すような制度を発明することから生じる。秩序とは、集団的行動の運営ルールであり、その特殊ケースが「正当な法の手続き」である。集団的行動が対立を緩和するのに成功する度合いに応じて、より大きな総産出が達成可能となる。

1 - 2 コースと企業の本質

取引費用が適切にも分析の中心部分におかれているが、それらは、企業と市場の間で取引を完遂することの有効性を系統的に評価することを可能ならしめる様な仕方で操作可能にされていない。

+ 企業は二つの点で取引費用を節約する。

1. 価格メカニズムに依拠することは適切な価格が発見されることを必要ならしめる。市場から企業の中に移された取引については、企業がそれ自身に対する唯一の供給者となる。その結果、適切な価格はすでに知られているか、あるいはいずれにせよ、値付けを行うことが要請される頻度が少なくなる。

9-10

2. 企業は多数の完全な契約を単一の不完全な契約(雇用契約)をもって置き換える。そのような不完全な契約は、別々の契約を『交渉し締結する費用』を節約するものとされている。それはまた変動する市場環境に対する適応を容易ならしめるのであるが、それは、提供されるべき労働サービスが雇用協約には一般的な規定の仕方では記述されず、細部は後の時点で仕上げられるべく残されるからである。
- + しかしこれらの節約が、いかにして、なぜ実現されるのかを説明する基礎的諸要因は導き出されておらず、またなぜ内部組織が完全に市場に取って代わらないかに関する議論は不完全である。

1 - 3 ハイエクと情報

1. 組織の問題に操作可能なやり方で取り組もうとするならば、合理性に対して諸限界が存在し、かつこれらを明示的に考慮しなければならない。
2. 効率的な経済的決定を行う多面必要な知識の多くは、きわめて特異性を持つものである。
3. 経済問題は、経済的事象が変化しており、かつ変化しつつある市場環境に対して継起的な適応が要求されるようなところでなければ、比較的に興味乏しい。
4. 経済システムの「驚異」は、価格が十分統計量として役立ち、そのことによって限定された合理性を節約することができることである。

1 - 4 市場の失敗

保険の問題、価格差別問題、垂直統合問題、情報の非対称性（情報の偏在）

1 - 5 要約

1 - 6 若干の相違点

1-6-1 企業と市場に関する従来の文献との相違点

- (1) 限定された合理性の諸帰結に大きな関心をおいている
- (2) 機会主義という概念を明示的に導入した。
- (3) 市場の失敗の原因は、不確実性・少数性 small numbers ではなく、それが限定された合理性と機会主義とに結びつくことである。

1-6-2 「構造 - 行動 - 成果」のパラダイムとの相違点

「構造 - 行動 - 成果」のパラダイム：利潤最大化という目標を企業が負っている、内部組織はほとんど無視される、外部環境は集中・参入障壁・超過需要などのような市場構造の尺度によって記述される、企業と市場の間にどのような諸取引が分配されるかは主として与件。

本書のアプローチ：取引をどの形態に割り当てるかという問題それ自体が固有の関心事であり、その割り当てを基礎的諸要因から導く。工業生産物の市場とその諸部分市場における行動と成果を説明するのに、市場構造の諸尺度に加えて、内部組織構造の諸尺度も用いる。

16

2 「組織の失敗の枠組」の予備的な提示

* 経済組織に対する一般的な接近方法

- (1) 市場と企業とは関連する一組の取引を完遂するための代替的な用具である。
- (2) 一組の取引を市場を解して実施すべきか、それとも企業の内部で実施すべきかは、各形態の相対的効率性に依存する。
- (3) 複雑な契約を市場を解して作成し実施する費用は、一方においてその取引にかかわっている意思決定者としての人間の諸特性に応じて変動し、他方において、その市場の客観的諸特性に応じて変動する。
- (4) 取引を対称的に分析しようとするならば、市場の失敗の諸源泉を認識すると同様に、内部組織の取引の諸限界をも認識する必要がある。

17

* 市場の失敗の可能性をもたらす環境の諸要因は、不確実性と少数主体間の交換関係であるが、これらは関連する一組の人間諸要因（不確実性が限定された合理性と、少数性が機会主義と）と結びつくことではじめて市場での交換を妨げている。

17-18

限定された合理性と不確実性の組み合わせ：

限定された合理性 = 「複雑な問題を定式化しとくための人間の頭脳の能力は、現実世界において客観的に合理的な行動をとるためにとくことを要求される問題のサイズに比べて非常に小さい」。 (Simon 1957) 一方では神経生理学的な諸限界に関係し、他方では、言語の諸限界に関係している。

機会主義と少数主体間交換という条件：

- (1) 機会主義は取引における率直さと正直さの欠如に関係しており、欺瞞的言動を持ってしりを追求することを含んでいる。
- (2) 競争的な（多数主体間 large-numbers の）交換関係が支配的である限り、機会主義的傾向はさしたるリスクを提起するものではない。
- (3) 最初の時点では多数の有資格の競争的な入札者を伴っている取引で、契約の実施過程で変換をとげ、契約の更新時点では供給者たりうるものが少数であるという条件が実質的に支配的となっている場合が多々ある。
- (4) 機会主義と、上の取引とが結合するとき、反復的な短期取引は高くつくし、リスクを伴う。

18-19

長期契約と短期契約の問題に対応するものとしての内部組織：

3 三つの例

3 - 1 価格差別

21

価格差別 独占市場における資源配分上の効率性のゆがみが是正されるという議論

暗黙の前提：顧客の生産物に対する評価額を発見する費用と再販売禁止条項の履行を強制するための費用が無視できる

しかしそのためには...

- (1) 顧客が自己の選考を正直に堅持し、再販売をしない約束を自ら守る場合か、(2) 販売者が全知の能力をもち、強い種類の限定されていない合理性を要求するような条件が満たされる場合に限られる。

21-22

+ 全面的な価格差別を行っても、 $A_2 < T < A_1 + A_2$ の場合、資源配分上は損失が生じ、他方で、私的に

は独占による利得が生じるということが起こりうる。

23

* 価格差別に伴うとされている伝統的な厚生上の利得は、評価と監視に関わる取引費用がともに取るに足らない大きさであるという仮定に決定的に依存している。

3 - 2 保険の例

23-24

保険の問題：リスク回避を仮定し、互いに独立なリスクにさらされる諸個人からなるグループが、一人の保険者のもとで、これらのリスクをうまくプールできるか？

他の情報が欠如し、かつ取引費用が取るに足らない場合：

+ 逆選択 adverse selection の問題：

$p + < (p_1 + p_2) / 2$ であるような良好なリスクタイプの個人から見ればこの保険料は高すぎる。良好な個人は保険市場から退出 より高い保険料を課す必要が生じる。 ($p_2 -$)D の保険料で安定

25

+ 道徳的危険 moral hazard：被保険者たち(の何人か)が事後的な情報格差を機会主義的に利用すること(偶然事象を緩和する効率的な行動をとらない)

+ 行動におけるグレシャムの法則：モラルハザードがおきると保険料が増加する 「責任ある」被保険者たちも機会主義的なタイプの被保険者に見習うようになる。

25-26

経験に基づく評定(経験を通じて収集される追加的情報を反映するように契約条項を改訂する)：

機会主義を抑制する効果を持つ

優良なタイプの被保険者をひきつける。

監視 monitoring：機会主義的なゆがみに付きまといわれているはずの諸市場の機能を回復させ、より効率的な配分をもたらすようにすることを助ける。

27

3 - 3 垂直的統合に関するスティグラーの議論

「垂直的統合は、歴史の新しい産業において広範に行われるであろう。産業が成長するにしたがって、分離 disintegration が観察されるであろう。そして産業が衰退段階に入るにしたがって、再統合が生じるであろう。」「なぜ、この企業は、費用逓減的な諸活動を、それぞれ独占になるまで拡張するという仕方を利用しないのだろうか？」右下がりの費用曲線は「専門化した一企業ないし数個の企業を支えるには小さすぎる。」

27-28

この事業において、少なくとも数個のライバル企業が存在することを仮定するならば、なぜ、これらの企業の中の一つが、利用可能な上記の規模の経済性を、同業者全体にとって必要な両全体を生産することによって、全員の相互の利益になるような仕方を利用するということが起こらないのか？

取引費用上の諸要因による。

+ 当事者間の専門的情報の交換がかかわってくる場合には、戦略的の誤伝達(専門企業がそのライバル諸企業に、情報を不完全かつ歪曲された仕方で開示する)の問題が生じる。

+ 生産技術において費用逓減を経験する部品を市場で交換することは長期契約・短期契約いずれにおいても阻害される。

* 技術は契約の妨げとなるものではなく、決定的なのは取引上の諸要因なのである。

図示(第2図)

29-30

+ 曲線 AC_1^s は、開設費用が必要となるため、どこでも曲線 AC_1^x の上方にある。

+ しかしながら当該産業にすでに参入している諸企業の中の一つが産業の全必要量を供給する際のC点における平均費用はA点における平均費用を下回る。

+ 学習の利益の考慮：曲線 AC_2^x は、実行による学習の利益のため、どこでも曲線 AC_1^x より低い。